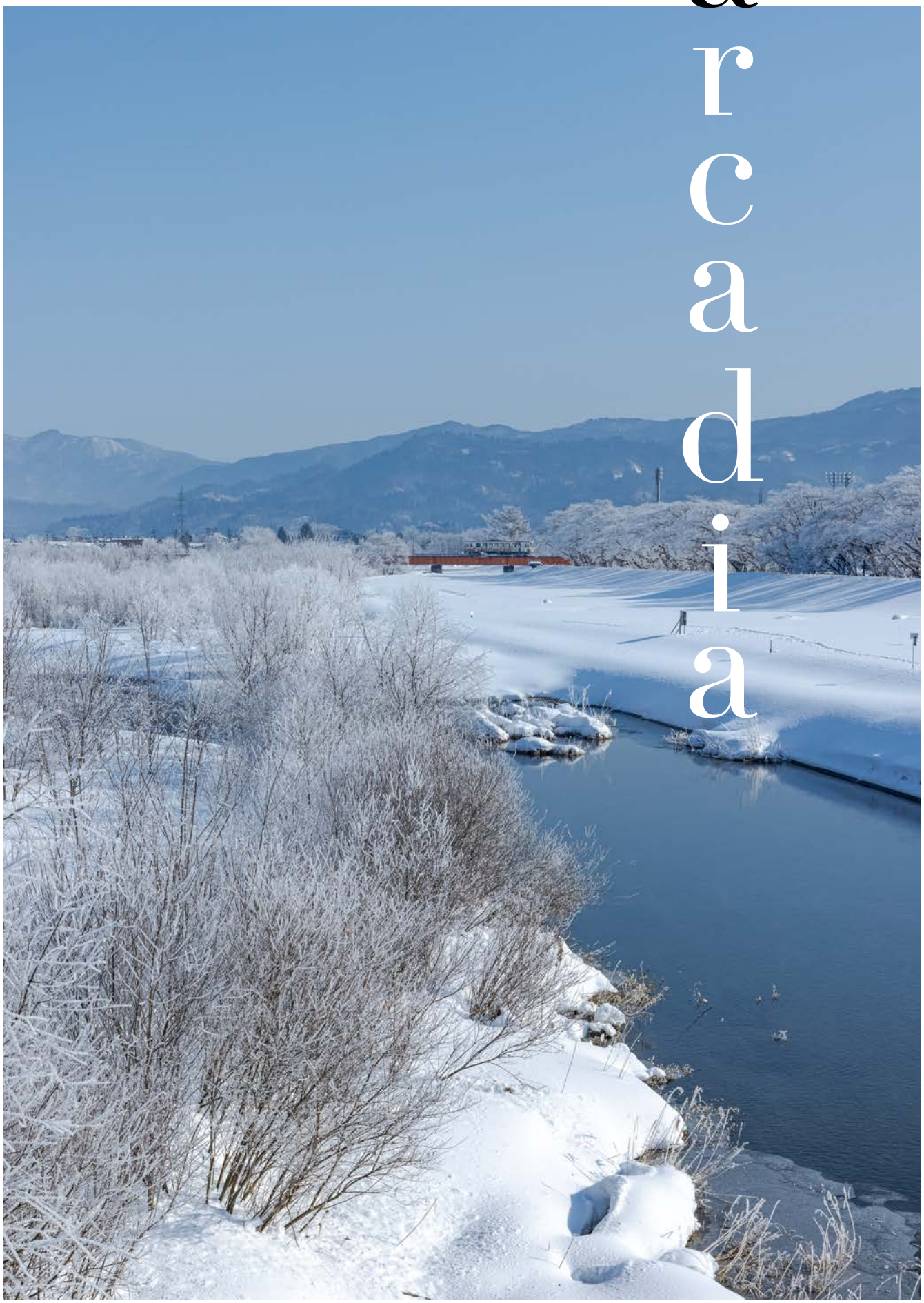
WINTER issue 2022 #14

YAMAGATA

arcadia



Nagai - Nanyo - Shirataka - Iide - Oguni

CONTENTS

04
小国新道
100年後の人々の幸せを想像し
編み直された、新たな道

10
小学校の土俵
画一的な風景の中に滲み出る
地域で紡がれてきた土着の文化

14
置賜のきれいな水を
笑顔でつないでいく
やまがたアルカディア観光局

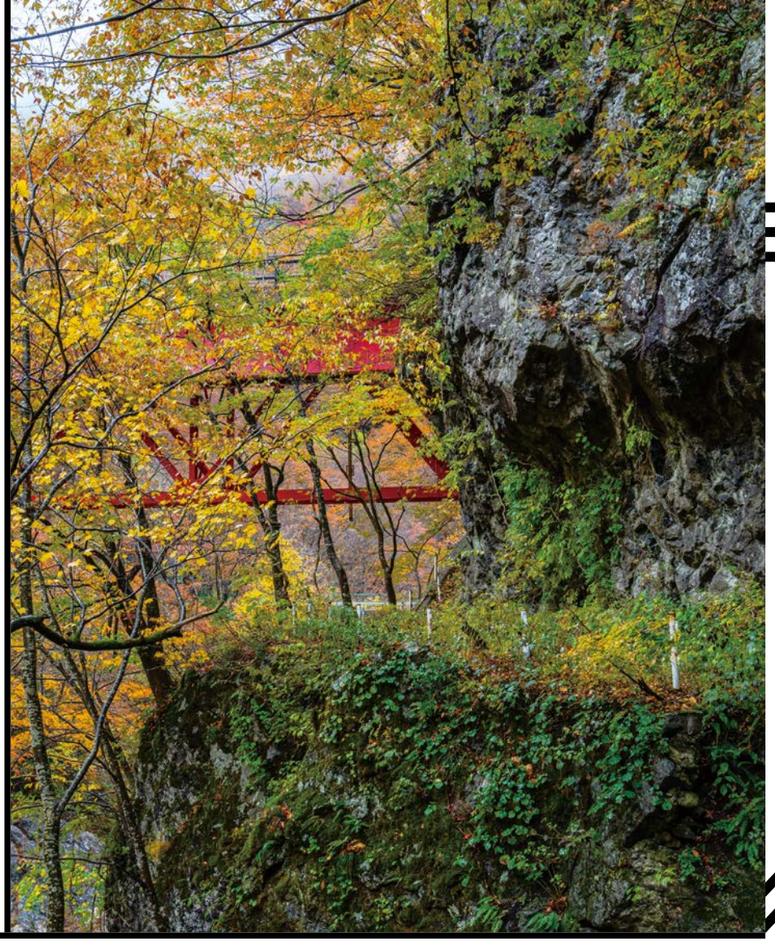
16
道の駅・駅の駅
地域の魅力と活力の発信地

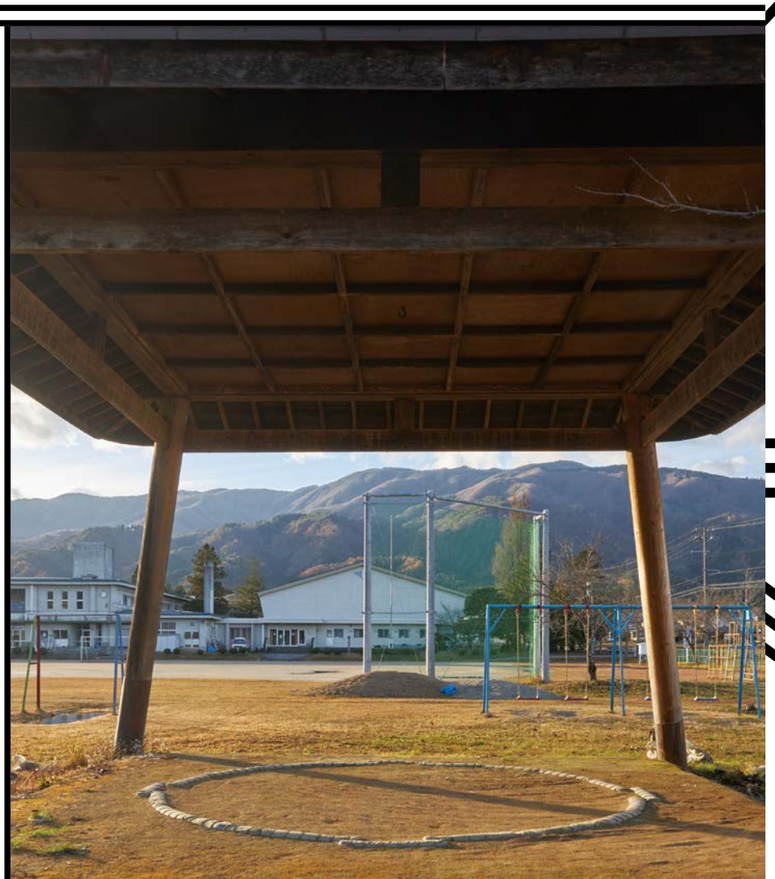
18
２市３町
フォトスポットマップ
ファインダー越しに見る
東洋のアルカディア

Cover STORY

ごとんごとんと長井線。
たぷんたぷんと野川が流れ、
ぶるんぶるんと車が走る。
それぞれの場所、それぞれに道。
昔も今も、暮らし繋げる道がある。

上：小国新道・片洞門（かたどうもん）
下：蚕桑（こくわ）小学校にある土俵





編み直される地域のつながり

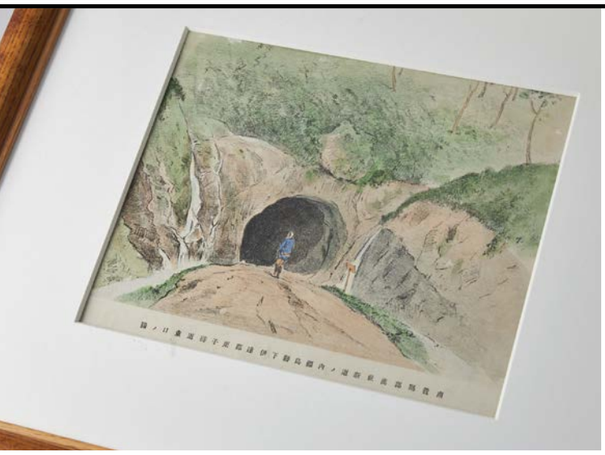
Michi
-Road-

なにごとにも「始まり」がある。生まれた時からそこに存在していて、わたしたちにとって当たり前に感じられるようなものにも、始まりがある。四方を山に囲まれ、深々と降りしきる雪国であるこの地に、今日も当たり前のように人々の生活が息づいているのは、勇気を持って「始めた」人がいたからであろう。近代化の足音とともに、全国各地どこも同じような景色になりつつあった中、それでも「らしさ」を今日に繋いでくれたのは、かつてこの地に生きた人たちの真っ直ぐな思いだろうか。

『栗子てふ山の岩根を一すじに　貫きてこそ道となりけり』

栗子隧道の開通を目にした三島通庸が詠んだ和歌に、先人への感謝が込み上げてくる。

季刊誌「arcadia」編集部



1
2 3
4

1 最上川舟行：高橋由一／中世以降における物流の中心は最上川舟運だった。明治に入ってもその文化の名残はのこっていた様子が描かれている
2 栗子山隧道：高橋由一／米沢から福島へ抜ける道として整備された栗子隧道。明治天皇の東北幸行の際には陛下がこのトンネルを通られた
3 吉田橋：南陽／『吉田橋』は、初代県令・三島通庸の土木事業の一環で構築されたもの。南陽市指定文化財に登録されており、現在も原型をとどめ山形県の県道として利用されている
4 吉田橋の親柱：南陽／奇岩をモチーフにした親柱は地元の石工・吉田善之助の作。吉田は他にも堅磐橋、中山橋、栗子トンネル工事、片洞門など、明治時代の重要な道路開削、橋造築に優れた力を発揮した

不便を便利に。不条理を合理に。
世界が急速に変化し始めた時代、近代。

山形県の中央を流れる大河、最上川。中世以降の山形県、そして置賜地方はこの最上川を中心にして形作られていた。月山・朝日連峰・飯豊山・吾妻連峰・そして蔵王をはじめとする奥羽山脈。見渡す限り山に囲まれていたこの地に暮らした人々は、自然を畏れ、祈り、祀り、自然とともに生きようとしていた。

「不便」や「不条理」とともに生き、その中で「いまここ」から「らしさ」を紡ぎ続けていた中世以降、日本の風景が一変する出来事が起きる。明治維新である。不便を便利に。不条理を合理に。人間の〝幸福〟と〝自由〟を目指し、あらゆるものが急速に変化し始めた時代。そのうねりは、ここ置賜にも届いていた。

変化をもたらしたのは、反対を顧ぬ強引な手法をして『鬼県令』とあだ名された三島通庸（みしまみちつね）である。鹿児島出身の三島は、新政府軍の一員として戊辰戦争に参加し、大久保利通によって才を見出され、明治7年酒田県令として山形に赴任し、明治9年に現在の山形県が設置されると、初代県令に任命された。

着任早々、三島は道路インフラを整備する決意を固め、中央政府にいた大久保へと上申する。大久保からは「あまり一時に大事業を行うのはどうか」と疑問が返ってきたが、三島の決意は固かった。仙台方面には蔵王の脇を貫く関山隧道（せきやまずいどう）を、福島方面には吾妻連峰を貫く栗子隧道（くりこずいどう）を、そして新潟方面には小国町を通る小国新道を整備した。

一体、三島の胸中にはどんな思いがあったのだろうか。「鬼」と呼ばれた彼の素顔に迫るべく、彼の土木工事の様子を描いた明治時代の画家・高橋由一（たかはしゆいち）の『三島県令道路改修記念画帖』を紐解いてみたい。

三島が当時の山形の様子を綴った文章がある。

「当山形県ノ如キハ特山星繞、群岳聳（そび）立シテ道路難儀、運搬利アラス、西方僅ニ浜スト雖、海北ノ余波ヲ受ケテ風涛高クシテ船舶便ナラス。」

山形県は、星をとりまくほどの高さの山々、数えきれないほどの山岳が聳え立ち、交通の便が悪い。西に酒田の浜があり、最上川の舟運が盛んだったといえども、風が強く船舶に頼るのは便利とはいえない。

『各自ノ幸福ヲ将来ニ得セシメ』100年後の幸せを想像して編み直された道

この三島の課題意識、なんとしてでも陸路の道を通そうとした執念が現れている箇所がある。小国町を通る、小国新道の道中にある「片洞門」である。

『小国には、元々、江戸時代には越後街道と呼ばれる街道があったんです』そう語るのは、地元小国の郷土史研究をされている渡部眞治さん。

『米沢藩で栽培された青苧がここを通り、新潟の小千谷地方に運ばれ、小千谷縮の原材料として供給されていた。最上川舟運とは異なる、藩にとっても重要な道の一つだったわけです。』

その言葉通り、江戸時代には「御役屋」と呼ばれる藩の支城が置かれ、街道沿いには峠を越えて荷物を運ぶ仕事を生業にする人たちの集落も点在していた。

そうした中世以降の風景を作っていた峠道は、人がやっと通れるほどの道幅で、三島の政策によって明治期に小国新道に置き換えられていくこととなる。

『片洞門にはね、小学校の頃に遠足で出かけました。新しいトンネルができるまでは、この狭い道をトラックが通っていたということも覚えています』

人が荷物を担いで峠を越えていた風景は、三島によって編み直された道によって馬や牛が断崖絶壁を歩む風景になり、その後近代化の象徴であるモータリゼーションによって荷物が運ばれる風景になった。それに伴って、消えていったかつての街道沿いの集落もある。

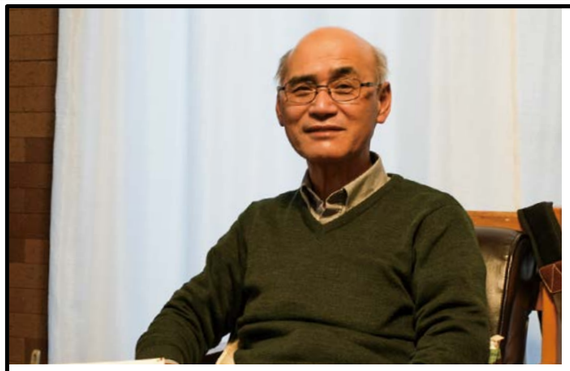
『きっと将来の幸せを願っていたんでしょうね。一般人には理解されにくかったでしょうけど、100年後の未来を考えると、道が必要だった。今を生きるわたしたちからすれば、この道がなかったらと思うと、ぞっとしますよね』

小国町が近代化の流れに取り残されることがなかったのは、小国新道があったからかもしれない。そこにある風景は、かつての風景とは異なるものの、今日も確かに人々の日常が紡がれている。

三島の起案書を読んでみると、そこには土木政策についてこんな一文が綴られている。

『各自ノ幸福ヲ将来ニ得セシメ』

100年後の人々の幸せを想像し、編み直された道は、今日ではかつての近代にこの地に生きた人の思いを伝える遺構となっている。



5 当時写真：馬で炭を運ぶ様子／鉄道ができるまでは、小国新道を使って炭などを馬に乗せて運んでいたありし日の姿があった
6 渡部眞治氏
7 片洞門：高橋由一／小国新道にある「片洞門」。山の岩肌をくり抜き、なんとしてもここに道を通そうとする三島の執念がうかがえる
8 荒川渓谷：小国町／断崖絶壁の渓谷。獣すらも通ることが困難と言われた箇所に道を通している

INFORMATION

吉田橋
〒999-2203 山形県南陽市大字小岩沢字静御前
南陽市指定文化財

片洞門
〒999-1321 山形県西置賜郡小国町大字綱木箱の口字子子見
（片洞門は、現在は廃道で立ち入り禁止である。）MAP P18

ゴォーゴォーゴォー、除雪車の音。ぱっぱっぱっ、明かりが灯る。
トントントンと台所。ご飯の香り、朝がきた。暮らす、はじまる、道がある。

編み直された「標準」の中に確かに残る地域の「らしさ」

蚕桑小学校の校庭にある土俵

残る小桜、南陽市には松風、飯豊町には藤縄など、それぞれの村で一番強いものが各力士名を襲名し、それが獅子舞と密接に絡み合っている地域もあった。

しかし、こうした土着の文化が、明治期に作られた「学校」という標準化の枠組みの中に、そのまま組み込まれたのかというと、どうやらそうでもないらしい。

『わたしが子どもの頃、昭和40年代には土俵がありました。休み時間には、土俵で相撲を取りましたね。当時は外遊びをたくさんしていましたからね。』子ども時代を思い出しながら語ってくださったのは、白鷹町地域学校協働活動推進員の酒井宏幸（さかいひろゆき）さん。彼が通った白鷹町立蚕桑（こぐわ）小学校には、1942（昭和17）年に土俵が設置された記録が残っている。

当時の写真には、土俵に立派な幕が掛けられ、子どもたちが総出で取り組みを見守る様子が残っている。

『特に、地域の方々やPTAの方々が熱意を持って取り組んでくださっているから、続くんでしょうね』

蚕桑小学校で行われている相撲大会は、一度は途絶えてしまったものの、昭和56年に、全戸からの寄付により用具一式を揃え相撲大会が復活し、現在まで学校の恒例行事として受け継がれている。

白鷹町地域学校協働活動推進員　酒井宏幸（さかいひろゆき）氏

道が編み直されたように、近代に入ってから、中世以降までの様々な風景が編み直された。明治以降、日本は国家としての輪郭をはっきりとさせ、画一化と標準化の中で、国際的な競争力をたくましくしていく。この時代に標準化されたものの一つに「学校」がある。

明治５年に学制が発布され、中央集権的なフランスの教育制度を参考にした学校制度が日本全国に敷かれるようになり、明治９年には現在とほぼ同数の学校が設立されていった。

それまで地域によって様々だった「子どもたちの学び」のかたちが、全国で標準化され、同じ教科書、同じ指導法をする先生、同じような校舎、同じ時間割という形で、画一的な姿をし始めた。けれど、そうした「標準」の中にも、伏流水のように地域の「らしさ」が滲み出ている部分がある。

みなさんの小学校には「土俵」はあっただろうか。山形県内の小学校には「土俵」が設置されている学校が多くあり、置賜地域には現在でも土俵が残っているところがある。

相撲とこの地域との関わりは、前号でも確認した通り、置賜地域の各地には草相撲や奉納相撲の文化が残されており、この地域に土着した一つの文化といえる。その証拠に、ここ置賜地域には、江戸時代から多くの力士名が刻まれた石碑が残されている。白鷹町にある荒車、長井市に

更新される「土着の文化」置賜「らしさ」はどこへ向かうのか

夕焼けにポツンと佇む土俵

の『横綱』に、この学校らしさでもある相撲大会の将来について尋ねてみた。

『僕はそこまで楽しみじゃなかったんでね。でも、大人になったら、子どもたちに相撲大会を楽しんで欲しいと思って、盛り上げる側になるかもしれません。今の地域の大人たちのように。』はにかみながら語ってくれた彼は、今は熱心に柔道に打ち込んでいる。将来は、郷土の力士・白鷹山のように武道の道で活躍したいと、控えめに語ってくれた。

標準化と画一化を図り、国家としての枠組みを強くしていった近代という時代。日本における近代という時代の最後には、大きな戦争という区切りが待ち構えていた。そうした近代を省み、改めて前を向いて歩いて行こうとした時、人々が思い出したのは、地域で脈々と継がれていたかつての「土着した文化」だったということだろうか。

そして、その「土着した文化」すらも、更新されようとしている現代。この置賜に脈々と継がれる「らしさ」とは一体なんなのか、問いは深まるばかりである。

そんな風に考えながら、校庭でポツンと佇む土俵を眺めていると、古代から現代へといたる置賜に住んだ人々の思いを感じずにはいられない。

INFORMATION

白鷹町立蚕桑小学校
〒992-077
山形県西置賜郡白鷹町横田尻3584-1
TEL：0238-85-2249

（左より）梵天を持つ渋谷晃生さん　小松詩乃さん　酒井宏幸氏

各学年の横綱に贈呈される『梵天』と呼ばれる竹でできたトロフィーは、地域にある寺から切り出された竹を使って、地域の方や保護者、学校教職員とが協力して手作りしている。

相撲大会当日には、子どもたちの保護者だけでなく、地域のお年寄りも駆けつけ、地域総出で子どもたちの元気な姿を応援する。

長年地域の人たちによって続けられてきた行事を、現代に生きる子たちはどう捉えているのか。

『正直に言うと、相撲大会はそんなに好きじゃありませんでした』そう語るのは、蚕桑小学校出身で、小学校在学中に相撲大会に優勝し、「梵天」を獲得した渋谷晃生さん。

『低学年の頃は楽しかったと思います。自分たちで四股名を考えたり、身体を動かすのも好きだったし。でも、高学年になると、そこまで楽しみじゃなかった。人前に出て、目立つのが好きじゃないので』

蚕桑小学校の校是“気はやさしくて力もち”という言葉を、まさに体現するかのような感想を語ってくれた。

直近３年は新型コロナウイルスの影響があり中止になっている蚕桑小学校の相撲大会、かつて

MISSION

東洋のアルカディアを子どもたちへ

私たちは、この地に住む人、働く人、訪れる人とともに、精神的にも経済的にも幸福度の高い地域をつくりあげ、次世代につないでいく。

VISION

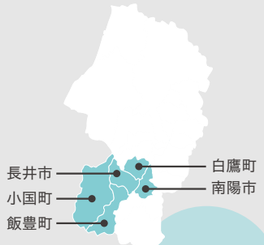
日本最強のローカル

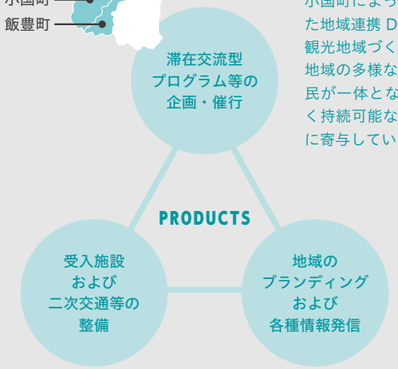
豊かな風土、持続可能なコミュニティ、
いつでも帰れる、みんなを迎えられる心のふるさとやまがた

緑や花に囲まれた、美しい里山風景。人々が行き交い、まちは住まう人の笑顔に包まれ、活気に満ち溢れている。
住む人、働く人、訪れる人は、「東洋のアルカディア」と呼ばれるこの地に想いを馳せる。
この地に暮らすことを誇り、100年、はるか先まで続く〝日本最強のローカル〟を目指す。

BRAND CONCEPT

やまがたアルカディア～新たな自分に出逢える郷山（さとやま）～





やまがたアルカディア観光局について

（一社）やまがたアルカディア観光局は、長井市・南陽市・白鷹町・飯豊町・小国町によって設立された地域連携 DMO。
観光地域づくりを通して、地域の多様な事業者と住民が一体となり、限りなく持続可能な地域の発展に寄与していく。

農業も観光も食育も企業・行政・学校を笑顔でつないでいく

（一社）やまがたアルカディア観光局
戦略会議委員
佐藤（さとう）　拓也（たくや）氏

置賜地域のきれいな水と食を未来の子どもたちへつなぐという付加価値

やまがたアルカディア観光局（以下、アルカディア観光局）では、アルカディア地域にある絶景ポイントでサウナを楽しみ、置賜の魅力を感じる「サウナ部」の活動を展開しています。アーティストと酒蔵がコラボレーションする〈OMIKI PROJECT〉の発起人でもある、佐藤拓也氏にお話を伺いました。

―〈OMIKI PROJECT〉はどのように生まれたのでしょうか？

海外からアーティストが山形に遊びに来たときに、日本酒を飲んでいたら「一緒に作りたい」と言ってくれたのが始まりです。知り合いや酒蔵に相談したところ、アルカディア観光局のお土産企画に発展し、コラボレーションが実現しました。アーティストは置賜地域のお酒や蕎麦、温泉も大好きだと言ってくれていて、おいしい水、豊かな自然から置賜の魅力が生まれているなぁと気づきましたね。

ちょうどその頃、長井市の縄文そばの館で、食材や調味料、食器まで全て手作りで自給率100パーセントのそばを目指そうという試みも動き出していました。サウナ部もそうですが、今思えば「水」をキーワードにストーリーを紡ぐことでつながるご縁が多かったです。

―サウナ部は、置賜地域の美しい自然の中でサウナを楽しむ人気イベントとなっていますね。

長井市では縄文古代の丘で遅咲きの桜を楽しみながら、バーベキューとサウナ。小国町では玉川の清流を天然の水風呂にして、野菜やキノコの石窯ピザも味わいました。渓流釣りや満天の星空が望める飯豊町、とろみのある黒鴨温泉と、おいしいコーヒーとパンケーキを楽しめる353 kurogamoを会場にした白鷹町でのサウナもよかったですね。南陽市では雲海サウナができたらいいなと思っているところです。

サウナ部でサウナを楽しむ時は、農家さんが丹精込めて作ったけれども規格外となってしまった、弾かれフルーツを使ったビネガーやシロップも提供しています。全国の大手企業などが加盟するJSA※を通したワーケーションや社員研修なども動いていて、置賜地域のきれいな景観と清らなか水を味わい、健康になりながら地域のフードロスを削減していけたらと考えています。

―さまざまな企画を立てる上で大切にしていることはなんですか？

一番は周囲の人たちが笑顔でいられること。置賜の豊かな自然、食、きれいな水を未来の子どもたちにつないでいきたいです。これからの時代は、美味しい、キレイ、健康、コスパ…という自己満足だけの価値観だけではなく、そこでしか味わえない消費の仕方や体験をすることが、地域の社会課題の解決や人々のしあわせ、子どもたちの未来につながると考えています。これからも新しい付加価値を地域の人々と楽しく共有、共創していきたいです。

※JAPAN SAUNA-BU ALLIANCE
サウナを通じて企業の出会いとビジネスの創出をコンセプトとする企業連合

PROFILE

佐藤　拓也（さとう・たくや）　山形県長井市出身。縄文そばの館ではデザインを、サウナ部では企画を担当。楽しさを優先する「遊び」のある企画はさまざまな人や企業を惹きつけている。現在、アルカディアマウンテンリゾートD.I.Yプロジェクト等が進行中。

INFORMATION

見る・触れる・体験する！

やまがたアルカディア観光局では、置賜地方の豊かな風土と奥深い文化が感じられる、滞在交流型旅行商品を企画・提案しています。「東洋のアルカディア」を体験できる様々なプランをぜひご利用ください。

詳しくは
ツアーHPを
ご覧ください。

一般社団法人やまがたアルカディア観光局
〒993-0003 山形県長井市東町２番50号
TEL.0238-88-1831　FAX.0238-88-1812
https://arcadia-kanko.jp/

公式HP　facebook　Instagram

SHOP

道の駅 駅の駅

地域の魅力と
活力に
あふれた場所
roadside station

道路交通が発展し自動車での長距離移動が増えるなか、ドライバーの休憩や、
道路、観光情報の発信、地域連携機能を目的に設置された「道の駅」。
アルカディア地域の魅力がたっぷり感じられる「道の駅」をご紹介します。

冬季間は営業時間が異なる場合があります。事前に店舗へご確認ください。

［長井市］けん玉のまちの交流拠点

道の駅　川のみなと長井

最上川舟運の港町として栄えた長井市。地域の特産品と創作メニューがあるフードコーナーのほか、わかりやすく親しみやすい観光案内が特徴的です。けん玉の形が楽しい「けん玉カレー」は、米沢牛筋を煮込んだレッドカレーと特産の菊芋が入ったブラックカレーの2種がけ。玉を模した馬肉メンチボールは馬肉の旨みが感じられ、すっきりとした味わいのカレーと好相性です。

〒993-0003 山形県長井市東町2-50
Tel/0238-87-1121　営業時間/9:00～18:00（1・2月は9:30～17:00）
定休日/無休　http://kawanominato.jp/

［南陽市］特色ある魅力を発信

駅の駅　なんよう

山形線（奥羽本線）と、山形鉄道フラワー長井線の起点にもなっている赤湯駅。併設している南陽市総合観光物産センター内にあるのが「駅の駅なんよう」です。

南陽市のワイナリー6社のワインや日本酒、銘菓、赤湯温泉グッズなどのほか、南陽市金山地域の魅力を発信する「ゴールドマウンテンプロジェクト」の商品が豊富。南陽市の特色が伝わるお土産が揃います。

〒999-2241 山形県南陽市郡山番外 南陽市赤湯駅構内観光物産センター
Tel/0238-40-2002　営業時間/9:00～17:00
定休日/年末年始

［白鷹町］絶品自慢、白鷹の鮎

道の駅　白鷹ヤナ公園

古くからヤナ漁をしていた白鷹町で、失われてしまったヤナ場を復元したいという、有志の力で誕生した「あゆ茶屋」。

2007年に道の駅となってからは、最上川で育った鮎を目当てに県内外から多くの人たちが足を運んでいます。炭火で焼いた鮎の塩焼きや豆腐田楽、厳冬期につくる寒干し鮎は、一度は味わってもらいたい白鷹の味。

〒992-0862 山形県西置賜郡白鷹町大字下山661-1
Tel/0238-85-5577　営業時間/10:00～17:00
定休日/水曜　https://www.ayuchaya.jp

［飯豊町］飯豊町の味がずらり

道の駅　いいでめざみの里観光物産館

新潟と宮城を結ぶ国道113号線のほぼ中間地点にある道の駅。町内や県内の特産品を幅広く取り揃えていることはもちろん、休憩スペースやトイレが広く、多くの観光客やバイカーが立ち寄ります。人気の「iide 山 oh!（いいで やまおう）」ソフトクリームのほか、中津川地区のどぶろくや、地元菓子店が考案したどぶろくのお菓子が並ぶのは飯豊町ならでは。

〒999-0606 山形県西置賜郡飯豊町大字松原1898　Tel/0238-86-3939
営業時間/9:00～18:00（レストラン/11:00～）※12月～3月は時間変更あり
定休日/12月～3月休館日あり　http://mezami113.com/

［小国町］豊かな自然の恵を満喫

道の駅　白い森おぐに

新潟県境から5キロほど、国道113号線沿いにある「白い森おぐに」。横根スキー場に隣接していて冬季はウィンタースポーツ客で賑わいます。山菜そばなどの軽食がいただける「ぶな茶屋」、地元食材を使ったメニューが豊富な「お母さん食堂あいあい」、物産品直売所「白い森のくまさん」を併設。特産の山菜やキノコ、マタギが作ったお米などが人気です。

〒999-1363 山形県西置賜郡小国町小国小坂町616-1
Tel/0238-62-3719　営業時間/9:00～17:00
定休日/1月1日（その他）　http://michinoeki-oguni.jp/

市街地エリアMAP

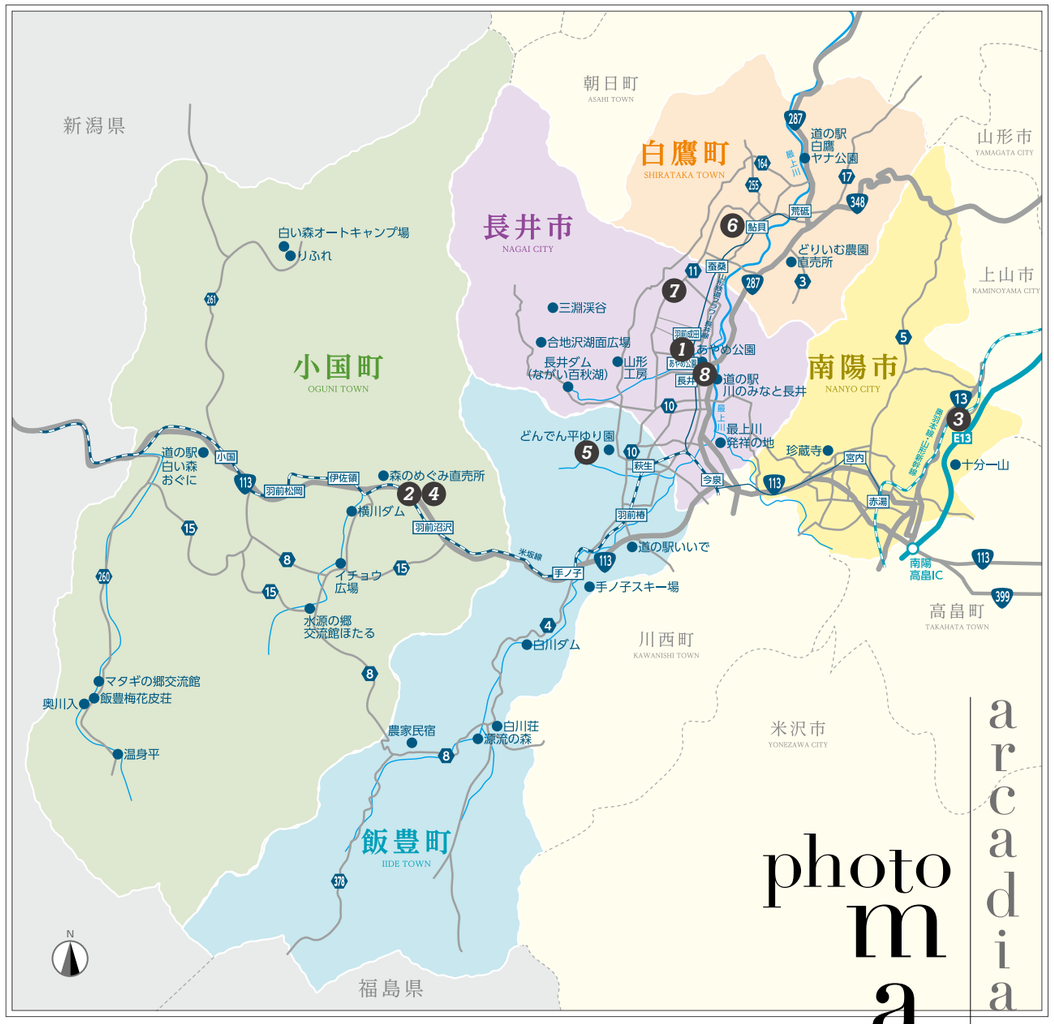
arcadia 季刊誌アルカディア

#14　2022年12月発行（年4回発行）

発　行／一般社団法人やまがたアルカディア観光局
編　集／株式会社 やまがたアルカディア編集社
写　真／船山裕紀、佐藤俊介
文　章／福井　健、上林晃子
デザイン／坂井理枝子

next #15
SPRING issue

特集1_未定
特集2_未定



本誌に掲載されている
写真の場所に行ってみませんか？
そしてすこしの間だけスマホをしまって
イザベラ・バードが感じた
美しい風景を眺めてみてください。

1
表紙：長井市
谷地橋
撮影date：2021年2月1日　午前10時40分頃

2
P03：小国町綱木箱口
片洞門観世音
撮影date：2022年11月2日　午後2時頃

3
P05：南陽市小岩沢
吉田橋
撮影date：2022年11月2日　午前11時50分頃

4
P06：小国町沼沢
綱取橋
撮影date：2022年11月2日　午後3時頃

5
P08-09：飯豊町萩生
どんでん平ゆり園展望台
撮影date：2022年2月17日　午前6時頃

6
P10：白鷹町横田尻
蚕桑小学校
撮影date：2022年11月24日　午後3時20分頃

7
P14：長井市勧進代
平林商店
撮影date：2022年11月13日　午後1時30分頃

8
裏表紙：長井市十日町
丸大扇屋
撮影date：2019年12月28日　午後2時30分頃

やまがた
アルカディア
観光局
YAMAGATA
ARCADIA
Tourism Bureau